専門研修プログラム名	宮城県立精神医療センター　専門研修プログラム
基幹施設名	宮城県立精神医療センター
プログラム統括責任者	角藤　芳久

専門研修プログラムの概要	本プログラムは、急性期から慢性期、児童思春期から老年期、任意入院から措置入院、更には医療観察法の通院までほぼ全ての精神科臨床領域を網羅的に研修できるプログラムを目指している。このプログラムを研修することで、精神科医としての幅広い臨床経験が積める上、精神科医療を包括的に捉える視点が自然と身につくことができる。	
専門研修はどのようにおこなわれるのか	1年目は、指導医と一緒に統合失調症等の患者を受け持ち、面接の仕方や診断、治療計画等の基本を学ぶ。2年目は、指導医の指導を受けつつ自立して診療を行い、面接の技術を高めると共に診断と治療計画の能力を充実させ、薬物療法の技法を向上させる。また、気分障害、神経症圏患者の診断・治療も経験するほか、他科と協働してリエゾン・コンサルテーション精神医学等を経験する。3年目は、心理社会的療法や地域精神医療等を学ぶほか、児童思春期精神障害や，アルコール・薬物依存症，パーソナリティ障害等を経験する。	
専攻医の到達目標	修得すべき知識・技能・態度など	専攻医研修マニュアルに従って、研修期間中に以下の領域について広く学ぶ必要がある。1.患者及び家族との面接、2.疾患概念と病態の理解、 3.診断と治療計画、4.補助検査法、5.薬物・身体療法、6.精神療法、7.心理社会的療法など、8.精神科救急、9.リエゾン・コンサルテーション精神医学、10.法と精神医学、11.医の倫理、12.安全管理
	各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得	緊急入院や措置入院患者の症例を経験することによって精神医療に必要な法律の知識について学習し、外来業務では面接の技法、患者との関係の構築の仕方、基本的な心理検査の評価などについて学習する。経験した症例について、院内のカンファレンスで発表・討論し知識を深めていく。
	学問的姿勢	研修期間を通じて与えられた症例を院内の検討会で発表することを基本とし、その過程で過去の類似症例を文献調査するなど自ら学び考える姿勢を心掛ける。また、経験した症例の中で特に興味ある症例については地方会等での発表や学会誌などへの投稿を進める。
	医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性	研修会等に参加して医療安全、感染管理、医療倫理、医師として身につけるべき態度等、医師としての基本的診療能力を高める機会を設ける。また、地域連携をとおして社会で活躍する他職種の専門家と交流することで、社会人として常識ある態度や素養を身につけるほか、多職種とチームワーク医療の構築について学習する。

施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方	年次毎の研修計画	初年度は基幹施設で、精神病圏等の診療を経験しコアコンピテンシーの習得など精神科医師としての素養を身につけることを重視する。2年目及び3年目は基幹施設または連携施設で、各施設の特色を活かした専門性の高い医療を学ぶため、本人の臨むキャリアプラン等に応じて計画する。
	研修施設群と研修プログラム	連携施設　1.東北大学病院、2.独立行政法人国立病院機構仙台医療センター、3.仙台市立病院、4.独立行政法人国立病院機構花巻病院、5.国見台病院、6.東北会病院、7.宮城県精神保健福祉センター、8.仙台市精神保健福祉総合センター、9.東北医科薬科大学病院
	地域医療について	地域移行など地域精神保健福祉活動を推進しており、地域との医療連携についても学ぶ。
専門研修の評価	専攻医に対する指導内容は、統一された専門研修記録簿に記載して、専攻医と情報を共有するとともに、プログラム統括責任者及びプログラム管理委員会メンバーで定期的に評価し、改善を行う。	
修了判定	研修を修了しようとする年度末には総括的評価により評価が行われる。	
専門研修管理委員会	専門研修プログラム管理委員会の業務	専攻医及び研修プログラム全般の管理と継続的改良を行う。
	専攻医の就業環境	専攻医の健康管理を含め研修環境を整備する。
	専門研修プログラムの改善	研修指導医等による専攻医の評価と、専攻医による研修指導医・指導体制の評価を基にプログラムの改善を行う。
	専攻医の採用と修了	要件を満たすものについて、専攻医として採用するかどうかを審議し認定する。また、研修プログラム総括責任者により受験資格が認められたことをもって修了したものとする。
	研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	特定の理由（海外への留学や勤務、妊娠・出産・育児、病気療養、介護、管理職、災害被災など）のために専門研修が困難な場合は、申請により専門研修を中断することができる。
	研修に対するサイトビジット（訪問調査）	日本精神神経学会のサイトビジットによる評価に基づき、研修プログラムの改善を行う。

専門研修指導医 最大で10名までにしてください。 主な情報として医師名、所属、 役職を記述してください。	大野　高志（副院長）
Subspecialty領域との連続性	日本精神科救急学会の認定医制度認定施設であり、また、子どものこころ専門医機構の認定研修施設である（各指導医在籍）。司法精神医学に関しては学会認定精神鑑定医取得の支援が可能である。連携施設においてはリエゾンコンサルテーション精神医学、アルコール・薬物依存症等などの領域と連続性を持った研修が可能である。